Keidanren
Policy & Action

スタートアップ振興に向けた経団連の取り組み
- Keidanren for Startups -

2026年10月

一般社団法人 日本経済団体連合会

スタートアップ委員会

- Society 5.0に向けては、ビジョンドリブンで
  課題解決や価値創造に挑戦する**スタートアップ**を振興し、
  産業構造の転換や産業の新陳代謝を図っていくことが不可欠。
- **スタートアップ委員会**は、**Society 5.0を担う企業群である**
  スタートアップの振興に向けて、2019年5月に発足。

主な活動

活動１．スタートアップ振興のための制度整備

- 提言「スタートアップ躍進ビジョン～10X10Xを目指して～」
- 提言「Science to Startup」
- 提言「育成から飛躍へ：スタートアップ育成５か年計画の先を見据えた基本戦略」

活動２．大企業の行動変容

- スタートアップフレンドリースコアリングの実施

活動３．スタートアップと大企業の連携促進

- Keidanren Innovation Crossing（KIX）の定期開催
- KIX-Regionalの立ち上げ
- 経団連Startup Slackの運営

体制

スタートアップ委員会
Committee on Startups



委員長
南場　智子
NAMBA Tomoko
ディー・エヌ・エー社長



委員長
髙橋　誠
TAKAHASHI Makoto
KDDI会長



委員長
出雲　充
IZUMO　Mitsuru
ユーグレナ社長



委員長
齊藤　昇
SAITO Noboru
BIPROGY社長

企 画 部 会
Sub-committee on Startups



部会長
齊藤　昇
SAITO Noboru
BIPROGY社長

委員
事業会社のオープンイノベーション・
新規事業担当の執行役員以上（～社長・会長）、
スタートアップの役員以上に限定

活動
役員必須のハイレベルなネットワーキングイベント
「Keidanren Innovation Crossing（KIX）」の開催、
スタートアップ振興政策の議論等を行う

スタートアップ政策タスクフォース
Taskforce on Startup Policy



座　長
出雲　充
IZUMO Mitsuru
ユーグレナ社長



座長代理
松本　勝
MATSUMOTO Masaru
VISITS Technologies CEO

委員
スタートアップに限定（非会員も参加可）
＊会員のスタートアップから推薦を受け、
　かつ、座長が認めた場合に限る

活動
ワンストップで様々な政策テーマに
関してスタートアップとしての意見を
取りまとめる

スタートアップ躍進ビジョン

Why Startup？

社会課題の解決やイノベーションを生む
仕組みとして最も優れたスキームの一つ

昨今の状況

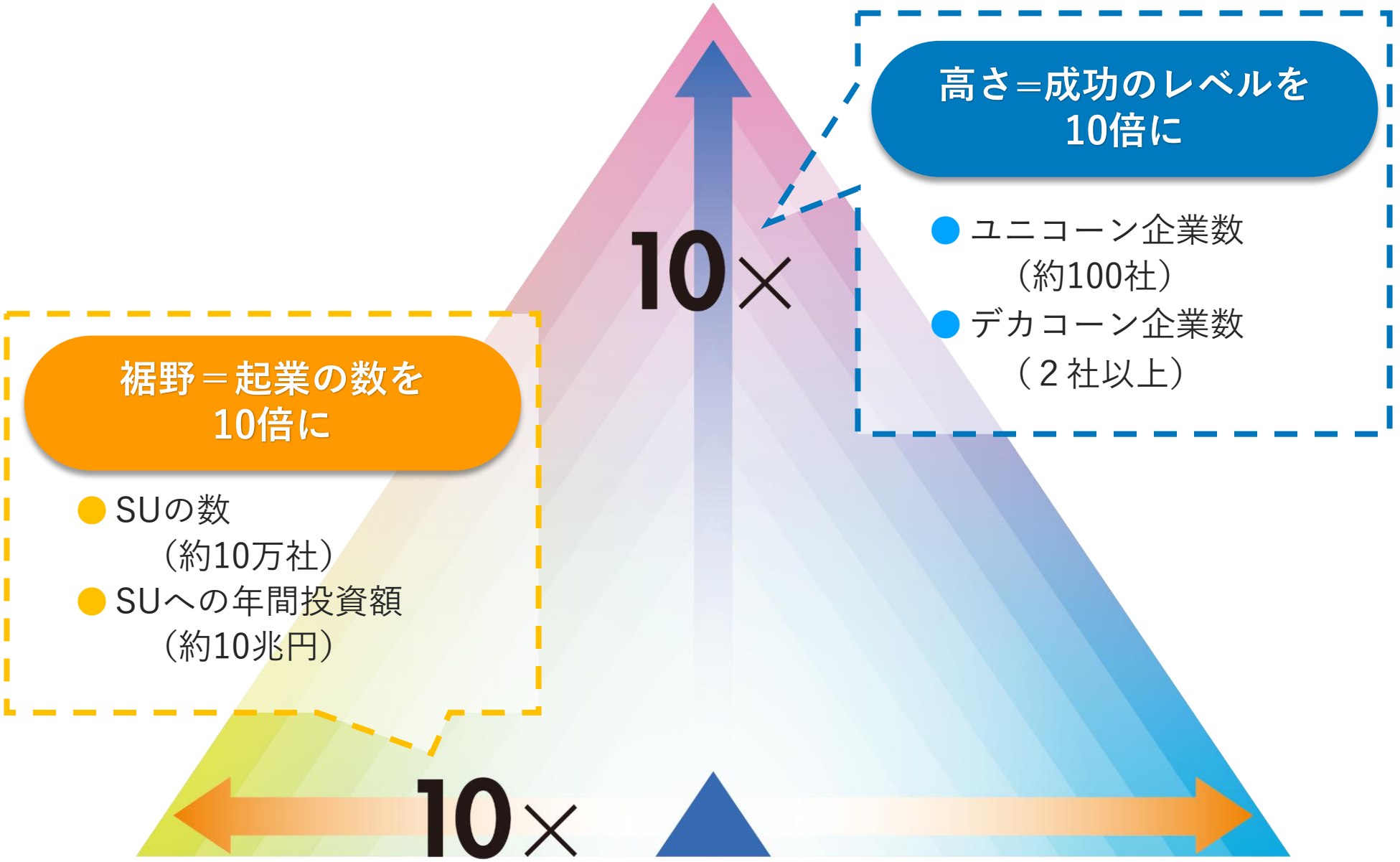
- わが国においても10年前と比較すると起業数も総投資額も大幅に増大、制度面も徐々に環境整備も進む
- スタートアップ先進国はその間にもさらにスタートアップ振興施策を打ち立てている　（Faster-moving target）

2022年3月15日

提言「スタートアップ躍進ビジョン」を公表

日本経済全体を浮揚させ、再度競争力を取り戻すための最も重要な課題として
スタートアップエコシステムの抜本的強化を提言
景気変動に関わらず、**官民を挙げて必要な施策を一斉に、迅速に、力強く**推進

2027年の目標：10X10Xの世界へ



5年後に起こすべき

7つの変化に向けた38項目 → 2027

1 世界最高水準のSUフレンドリーな制度

- エクイティの柔軟な活用が可能な制度の整備
- 各種行政手続の簡便化・コスト削減
- 規制改革関連制度の強化と周知、支援体制の確立
- 公共調達におけるスタートアップの更なる活用
- 共通知見横断ライブラリーの整備
- スタートアップとの契約の適正化
- 個人投資家の参入を促す環境整備
- ベンチャーデット産業の整備・促進

2 世界で勝負するSUが続出

- 政府系ファンド、機関投資家をはじめとした多様なプレイヤーによるスタートアップ投資の促進
- 大企業によるスタートアップのM＆Aの活性化
- 事業のカーブアウト・スピンオフの加速
- 未上場株セカンダリーマーケットの整備
- グローバル展開を後押しする環境の整備
- グローバルアクセラレーションプログラムの更なる活用
- 国家レベルでの英語力強化
- 留学の促進

3 日本を世界有数のSU集積地に

- 世界有数のベンチャーキャピタルの誘致
- アジアの起業家・エンジニアの誘致
- グローバルトップ企業のアジア拠点の誘致
- 言語・教育・医療等スタートアップ外国人材向けの生活基盤の整備
- 優れた研究者を呼び込む知的財産権制度の確立

4

大学を核としたSUエコシステム

- 各大学が有する強みの特定・更なる強化
- 各地の強みに応じた世界トップレベルの産業クラスターの形成
- 大学による研究者・学生のスタートアップ起業支援
- ディープテック系スタートアップへの助成
- 地方銀行による積極的支援

5

人材の流動化、優秀人材をSUエコシステムへ

- 大企業の採用から経営層まであらゆるレイヤーの多様化
- 副業・兼業の推進、同業転職・起業の過度な制限の防止
- スタートアップへの人材派遣・交流の促進
- シームレスな労働移動を支える税制・法制度

6

起業を楽しみ、身近に感じられる社会へ

- 体系的なアントレプレナーシップ教育の実施
- 多様なキャリア・才能を育む教育・大学入試
- 起業を身近なものとする文化の醸成

7

SU振興を国の最重要課題に

- 国のトップによる明確なコミットメント
- スタートアップ振興政策の司令塔（スタートアップ庁等）の創設
- デジタル規制緩和の推進
- イノベーションフレンドリー企業への変容
- 企業変革の支援

躍進ビジョンが大きな動きを創出

2022年3月　経団連「スタートアップ躍進ビジョン」

2022年6月　「骨太方針2022」「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」
自民党「スタートアップ育成5か年計画に向けた提言」

2022年11月　「スタートアップ育成５か年計画」　東京都「Global Innovation with STARTUPS」

2023年5月　自民党「『スタートアップ育成５か年計画』の実現に向けた提言」

2023年6月　「骨太方針」「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2023年改訂版」
2024年6月　「骨太方針」「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2024年改訂版」

2024年9月　経団連「Science to Startup」

2025年6月　「骨太方針」「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2025年改訂版」

2026年4月　経団連「育成から飛躍へ：スタートアップ育成５か年計画の先を見据えた基本戦略」

10X10X実現に向けたアクションの3本柱

提言活動

- 政府施策に関する**レビューブックの発行**
- **提言「Science to Startup」**
- **提言「育成から飛躍へ：スタートアップ育成５か年計画の先を見据えた基本戦略」**
- 経団連 Startup Summitの開催
- 規制改革要望・税制改正要望による提言
- 日本成長戦略会議スタートアップ政策推進分科会・経済産業省イノベーション小委員会をはじめとする政府関係会合への意見発出
- **各地スタートアップとの意見交換**

大企業の行動変容

- **スタートアップフレンドリースコアリング**の継続実施
- CVCネットワーキング
- 各種勉強会の開催（カーブアウト、ベンチャークライアントモデル（VCM）等）

大企業とSUの連携

- ピッチイベント「**KIX**」の定期開催（2019年～、延べスタートアップ404社登壇）
- KIXの全国展開版「**KIX-Regional**」の立ち上げ（2025年より２回開催）
- 「**経団連 Startup Slack**」の運営

提言、レビューブック、スコアリングの結果等は経団連HPに全文を掲載しています
リンクは28ページをご参照ください

躍進ビジョンレビューブック2026を発行

- 躍進ビジョンの実現に向けて、2023年以降毎年、10X10Xの実現に向けた**政策の実現状況や効果、残された課題をまとめたレビューブックを発行**。
- 政府の「スタートアップ育成５か年計画」（同年11月）の下、従来にない規模で集中的に施策が展開。
  一方、**裾野も高さも伸び悩み**、スタートアップエコシステムの活性化に一層取り組むことが不可欠。

ユニコーン８社

Sakana AI／SmartNews

Preferred Networks

SmartHR／Spiber／GO

Playco／Opn

（参考）
1社あたりの資金調達額傾向

	平均値	中央値
2021	2.4億円	3,600万円
2023	2.2億円	3,310万円
2024	2.6億円	4,840万円
2025	3.1億円	6,240万円

裾野＝起業の数を10倍に

	スタートアップ数	年間投資額
2021	16,100社	8,876億円
2023	22,000社	8,284億円
2024	25,000社	8,828億円
2025	27,000社	7,613億円

×1.7

高さ＝成功のレベルを10倍に

	ユニコーン企業数	デカコーン企業数
2021	6社	0社
2023	7社	0社
2024	8社	0社
2025	8社	0社

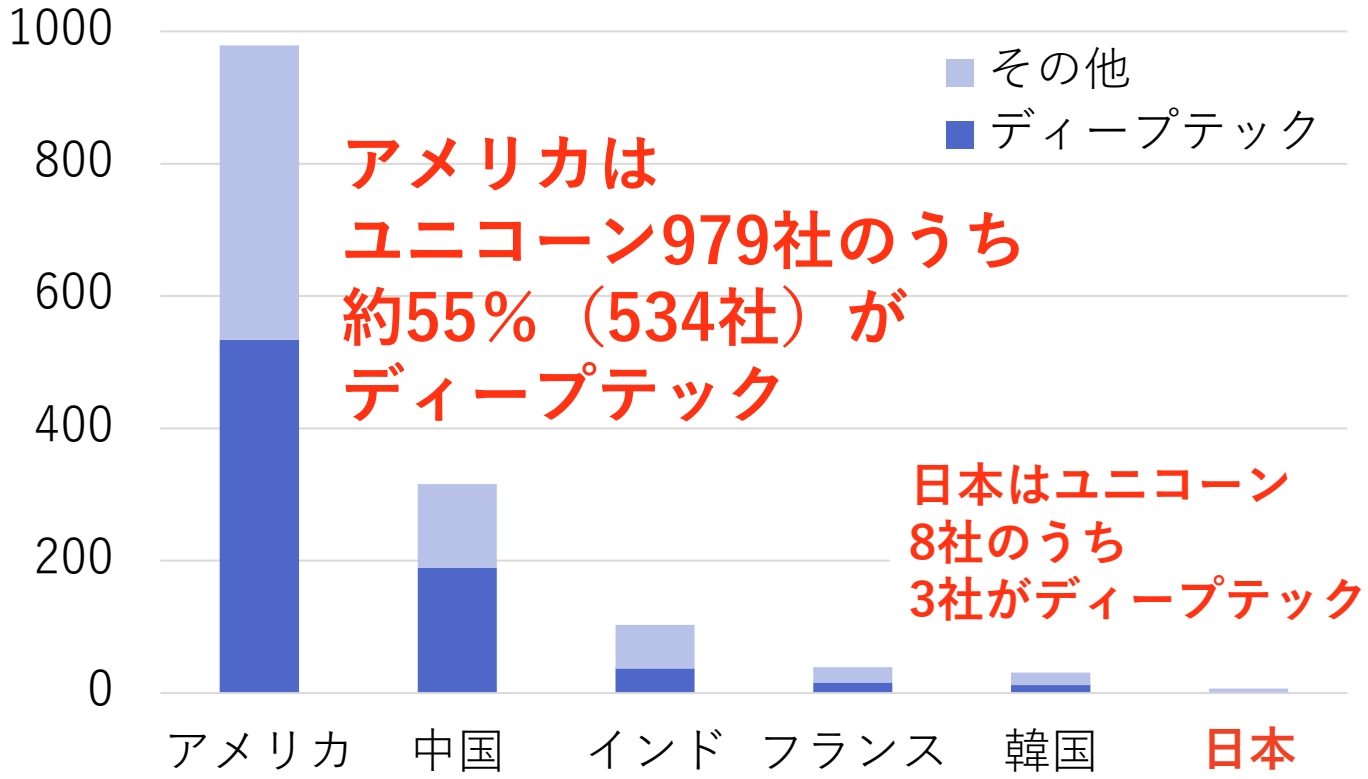
×1.3

（出所）
スタートアップ数　ユーザベース「スピーダ」
　　フォースタートアップス「STARTUP DB」（2026年３月13日閲覧）
年間投資額　　ユーザベース「Japan Startup Finance 2025」
ユニコーン企業数　CB Insights

提言「Science to Startup」

- **高さを引き上げるためのカギは、ユニコーン級に成長するポテンシャルを秘めるディープテック。**
- 日本の研究力の低下に対する指摘もあるが、世界に勝てる研究は多数存在。
  しかしその強みをスタートアップを通じて社会実装するパスが未整備。
- そこで、**スタートアップを通じた高水準な研究の社会実装＝Science to Startup**の実現に必要な施策を提言。

ユニコーン企業数に占めるディープテック企業数の割合



Science to Startupのパス整備に向けた具体的政策

1. 大学の知の能動的な掘り起こし
   （プロフェッショナルチームの組成支援）
2. 大学におけるモメンタムの醸成
3. カスタマーディスカバリーの導入
4. グローバルのパスを活用した
   成功事例の創出
5. 政府支援の効果最大化
6. より世界に開かれた
   エコシステムの形成
7. Science to Startupを加速する人材育成

（出所）グローバル・スタートアップ・キャンパス構想有識者会議資料、CB Insights、Pitchbookを基に経団連事務局作成

5か年計画の先を見据えた基本戦略

提言「育成から飛躍へ：スタートアップ育成５か年計画の先を見据えた基本戦略」（2026年4月公表）より

戦略１

政府の継続的なコミットメント

「第二次５か年計画」の策定

- 「スタートアップ育成５か年計画」の下、集中的・継続的に政策が展開・拡充。その**存在意義は大きい**
- ５か年計画の終期には、達成状況の検証・レビューを踏まえ、政策の強化・継続を担保する**「第二次５か年計画」**を策定すべき

戦略２

グローバルへの「飛躍」を支える政策とエコシステム

- 起業当初からグローバルを目指す野心を持ち、**資金調達と市場獲得の両面**において**「グローバル」に戦えるスタートアップ**を多く生み出すことに注力。その際、**国内外を問わずに支援対象**とすべき
- グローバル起点の政策を展開する中核的拠点として、**GSC構想**（グローバル･スタートアップ･キャンパス）を積極活用すべき

戦略３

官需を成長ドライバーとするスケールアップ

- **防衛･宇宙・防災**などの公共性が高い一方、市場原理のみによる初期需要創出やスケール拡大が困難な分野を中心に、**政府が集中的かつ長期的な公共調達**を通じて成長を後押しすべき
- スタートアップの選定には、**民間の知見・目利きを活用**することが不可欠

各地スタートアップとの意見交換

■ 地方経済団体との懇談会のため各地を訪問する機会をとらえ、
その地域のスタートアップと懇談。（北海道・北陸・東海・四国・九州）

■ **聞き取った意見・課題は政策提言の内容に反映。**
例：起業した教員・研究者が大学・学校に戻れるようにしてほしい。
なかなか経営者人材がおらず、採用に大きな課題がある。







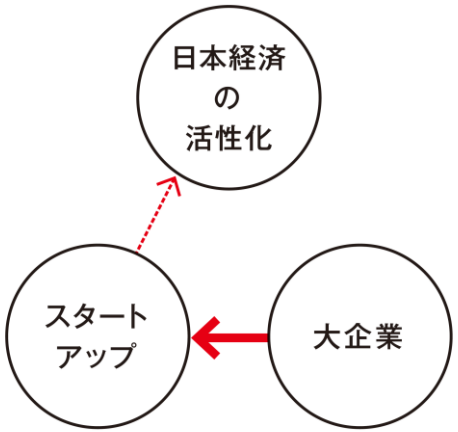


スタートアップフレンドリースコアリング

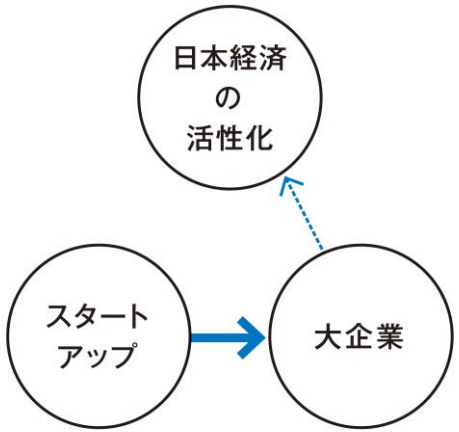
- 経団連が経済界全体の行動変容を促すべく策定した**「スタートアップフレンドリースコアリング」**は、アンケートへの回答（1,000点満点）によって**企業の活動を点数化**する取り組み。2022年度に開始。
- スコアリングを構成する3つの視点は、スタートアップエコシステムに重要であると同時に、**大企業がよりイノベーティブになるために不可欠な観点**。
- 第1回150社、第2回148社、第3回111社、第4回112社が参加し、**参加企業数は合計240社**となった。
- このうち**4回すべて参加した企業（フルエントリー企業）50社の平均スコアは、1,000点満点中388.7点→397.8点→415.2点→419.9点と逓増**。大企業の行動変容が着々と進展。

経団連「スタートアップフレンドリースコアリング」の3つの視点

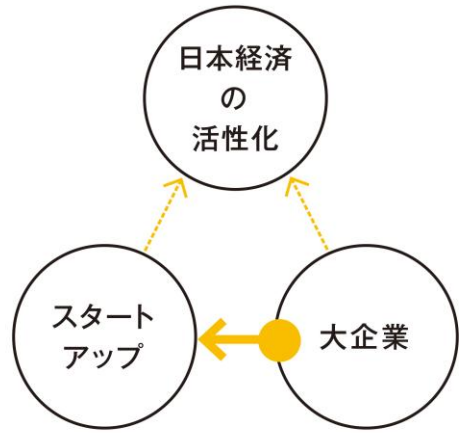
1 リソース提供
人材の提供、資金の提供、
製品・サービスの調達、業務提携



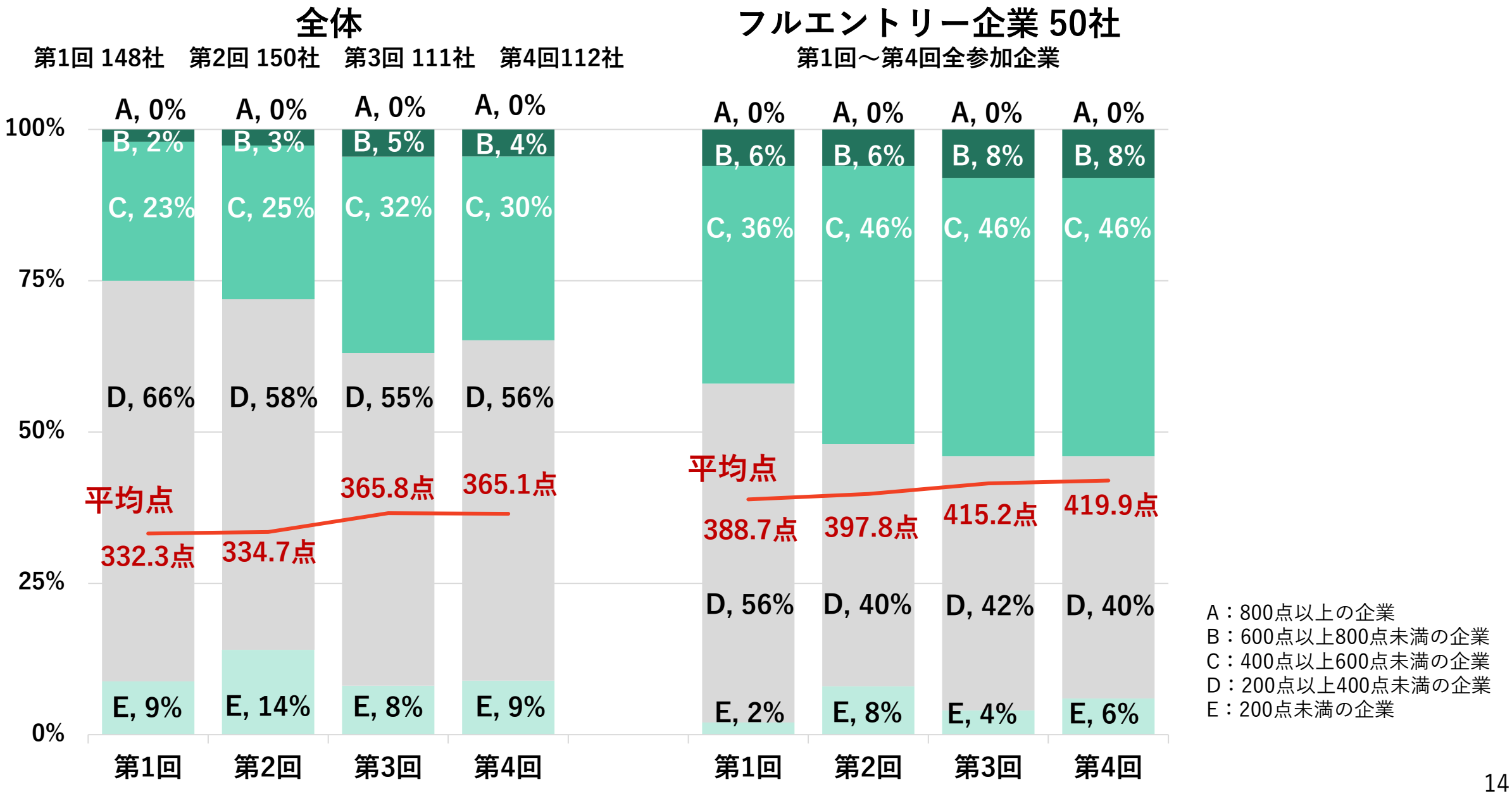
2 事業・人材の取り込み
アクハイア、M&A



3 事業・人材の輩出
カーブアウト、人材輩出



第4回スコアリングの結果概要



A：800点以上の企業
B：600点以上800点未満の企業
C：400点以上600点未満の企業
D：200点以上400点未満の企業
E：200点未満の企業

第4回のトップ10社

1	KDDI	Spark Your Journey KDDI	7	日本航空	JAL JAPAN AIRLINES
2	電通グループ	dentsu	8	NTT	NTT
3	ディー・エヌ・エー	:DeNA	9	日立製作所	HITACHI
4	BIPROGY	BIPROGY	10	みずほフィナンシャルグループ	ともに挑む。ともに実る。 MIZUHO みずほフィナンシャルグループ
5	日本電気	NEC		三菱UFJフィナンシャル・グループ	MUFG 三菱UFJフィナンシャル・グループ
6	三菱地所	三菱地所			

※10位は同スコアのため、２社が同順位

これまでのスコアトップ10社

	第1回（2022年度）	第2回（2023年度）	第3回（2024年度）
1	KDDI	KDDI	KDDI
2	ディー・エヌ・エー	電通グループ	電通グループ
3	東京海上ホールディングス	ディー・エヌ・エー	BIPROGY
4	凸版印刷	BIPROGY	三菱地所
5	BEENOS	三菱地所	ディー・エヌ・エー
6	リコー	TOPPANホールディングス	日立製作所
7	第一生命ホールディングス	三菱UFJ フィナンシャル・グループ	三菱UFJ フィナンシャル・グループ
8	三井不動産	日本生命保険	日本電信電話
9	コマツ	東京海上ホールディングス	日本電気
10	野村ホールディングス	ANAホールディングス	TOPPANホールディングス

第4回の部門別トップ10社

リソース提供部門

1	KDDI
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ
3	三菱地所
4	電通グループ
5	豊田通商
6	日立製作所
7	日本航空
7	BIPROGY
9	三井住友フィナンシャルグループ
10	東日本旅客鉄道

事業・人材の取込み部門

1	電通グループ
2	KDDI
3	BIPROGY
4	NTT
5	アシックス
6	住友生命保険
7	日本電気
8	ディー・エヌ・エー
9	大和証券グループ本社
10	メディパルホールディングス

事業・人材の輩出部門

1	日本電気
2	ディー・エヌ・エー
3	TDK
4	電通グループ
5	日本航空
6	富士通
7	KDDI
8	日立製作所
9	三井住友フィナンシャルグループ
10	ANAホールディングス

スコアリングご回答企業一覧 1/3

フルエントリー企業　第1回・第2回・第3回・第4回全てご回答いただいた企業

asics
alue
ALSOK
NTT DATA
建設が、好きだ。 奥村組 OKUMURA CORPORATION
KG 兼松株式会社
Spark Your Journey KDDI
KOMATSU
株式会社コングレ
佐藤工業
清水建設
住友化学 SUMITOMO CHEMICAL
あなたの未来を強くする 住友生命
住友電工
SEKISUI
SOMPO ホールディングス
Daiichi-Sankyo 第一三共株式会社
Daiichi Life Group
TAISEI 大成建設 For a Lively World
大和証券グループ本社 Daiwa Securities Group Inc.
CHUGAI 中外製薬 Roche ロシュ グループ
Energia 中国電力
:DeNA
TDK
TOKIO MARINE 東京海上ホールディングス
TORAY
戸田建設
TOPPAN
豊田通商
NEC
NISSAY 日本生命
日本パーカライジング株式会社 NIHON PARKERIZING CO.,LTD.
あしたを、つなぐ ── 野村不動産グループ 野村不動産ホールディングス
NOMURA
Panasonic
JR東日本 東日本旅客鉄道株式会社
HITACHI
BIPROGY
FUJITSU
プリマハム株式会社
Marubeni 丸紅株式会社
ともに挑む、ともに深る。 MIZUHO みずほフィナンシャルグループ
MS&AD 三井住友海上
SMBC
MITSUI&CO.
三菱地所
MITSUBISHI ELECTRIC Changes for the Better
MUFG 三菱UFJフィナンシャル・グループ
MORI TRUST

ほか

スコアリングご協力企業一覧 2/3

第4回にご回答いただいた企業

あいおいニッセイ同和損保　アイシン　アイモバイル　アイデミア・ジャパン　アシックス　アルー　ALSOK
安藤・間　市川環境エンジニアリング　いであ　稲畑産業　イビデン　岩田商会　ANAホールディングス　SCSK
NOK　NTN　NTT　NTTデータ　ENEOSホールディングス　大林組　奥村組　小田急電鉄　小野薬品工業　兼松
川崎重工業　キヤノン　キヤノンマーケティングジャパン　紀陽銀行　共同印刷　グンゼ　KDDI　コマツ
コングレ　佐藤工業　山陰酸素工業　JERA　静岡ガス　清水建設　スズキ　住友化学　住友生命保険
住友電気工業　セイコーエプソン　積水化学工業　SOMPOホールディングス　第一三共
第一ライフグループ　大成建設　大東建託　大和証券グループ本社　田辺ファーマ　中央日本土地建物
中外製薬　中国電力　千代田化工建設　TSUCHIYA　ディー・エヌ・エー　TDK　帝人　電通グループ
東亞合成　東亜道路工業　東京海上ホールディングス　東レ　戸田建設　TOPPANホールディングス
トヨタ自動車　豊田通商　日油　日揮ホールディングス　NIPPO　NIPPON EXPRESSホールディングス
日本ゼオン　日本電気　日本発条　日本航空　日本生命保険　日本パーカライジング
野村不動産ホールディングス　野村ホールディングス　パナソニックホールディングス　浜松ホトニクス
東日本旅客鉄道　日立製作所　BIPROGY　表示灯　フジタ　富士通　富士電機　プリマハム　古河電気工業
丸紅　MIXI　みずほフィナンシャルグループ　三井化学　三井住友海上火災保険
三井住友フィナンシャルグループ　三井物産　三菱HCキャピタル　三菱地所　三菱総合研究所　三菱電機
三菱UFJフィナンシャル・グループ　メディパルホールディングス　森トラスト　ヤマトホールディングス
山梨中央銀行　ヤマハ発動機　横河電機　リンクアンドモチベーション　ワタキューホールディングス

スコアリングご協力企業一覧 3/3

第1回～第4回でご回答いただいた企業（※一部掲載を希望されない企業を除く）

IHI　あいおいニッセイ同和損保　アイシン　アイセロ　アイモバイル　アイデミア・ジャパン　旭化成　アサヒグループホールディングス　アシックス　味の素
アステラス製薬　アズビル　アスリテラ　アルー　ALSOK　安藤・間　市川環境エンジニアリング　いであ　稲畑産業　イビデン　伊予銀行　岩田商会
ヴェオリア・ジャパン　エイジェック　エイチ・ツー・オー リテイリング　ANAホールディングス　SMBC日興証券　SCSK　NECソリューションイノベータ　NOK　NTN
NTT　NTTデータ　ENEOSホールディングス　大林組　奥村組　小田急電鉄　小野薬品工業　カシオ計算機　カシワバラ・コーポレーション　兼松　カヤバ　川崎重工業
関西電力　キヤノン　キヤノンマーケティングジャパン　紀陽銀行　共同印刷　グッドコムアセット　グリーンモンスター　グンゼ　KDDI　建設技術研究所　弘電社　興和
国際自動車　小島プレス工業　コナミグループ　コニカミノルタ　コマツ　コングレ　相模屋食料　佐藤工業　山陰酸素工業　三十三銀行　三東工業社　三洋化成工業
JFEエンジニアリング　JFEスチール　ジェーシービー　JERA　塩野義製薬　四国銀行　静岡ガス　清水建設　上海電力日本　新日本科学　スズキ　住友化学　住友商事
住友生命保険　住友電気工業　セイア　正興電機製作所　セイコーエプソン　セイコーグループ　西武ホールディングス　積水化学工業　セブン＆アイ・ホールディングス
セブン－イレブン・ジャパン　セブン銀行　セラク　双日　ソニーグループ　SOMPOホールディングス　第一三共　第一ライフグループ　ダイキン工業　大成建設
大東建託　大日本印刷　大和証券グループ本社　大和ハウス工業　TAKARA＆COMPANY　竹中工務店　田辺ファーマ　中央日本土地建物　中外製薬　中国電力　中電工
千代田化工建設　TSUCHIYA　椿本チエイン　TIS　ディー・エヌ・エー　TDK　帝人　デンソー　電通グループ　東亞合成　東亜道路工業
東海東京フィナンシャル・ホールディングス　東京海上ホールディングス　東京建物　東京電力ホールディングス　東芝三菱電機産業システム
東洋製罐グループホールディングス　東洋紡　東レ　戸田建設　TOPPANホールディングス　トヨタ自動車　豊田合成　豊田通商　トランザクション　トランスコスモス
南海電気鉄道　ニコン　日油　日揮ホールディングス　日新運輸工業　日鉄興和不動産　日鉄ソリューションズ　NIPPO　NIPPON EXPRESSホールディングス
日本カーバイド工業　日本精工　日本ゼオン　日本電気　日本特殊陶業　日本発条　日本化薬　日本航空　日本生命保険　日本ゼネラルフード　日本パーカライジング
農林中央金庫　野村総合研究所　野村不動産ホールディングス　野村ホールディングス　博報堂　白鳳堂　パナソニックホールディングス　浜松ホトニクス　BEENOS
東日本旅客鉄道　日立製作所　日立ハイテク　日野自動車　BIPROGY　表示灯　ファミリーマート　フジクラ　フジタ　藤田観光　富士通　富士電機　フジワラテクノアート
プリマハム　古河電気工業　北海道電力　ボッシュ　丸紅　三浦工業　MIXI　ミサワホーム　みずほフィナンシャルグループ　三井化学　三井金属鉱業
三井住友海上火災保険　三井住友フィナンシャルグループ　三井物産　三井不動産　三越伊勢丹ホールディングス　三菱HCキャピタル　三菱地所　三菱重工業
三菱総合研究所　三菱電機　三菱マテリアル　三菱UFJ銀行　三菱UFJフィナンシャル・グループ　三菱UFJリサーチ＆コンサルティング　明治ホールディングス
メディパルホールディングス　メルカリ　森トラスト　森永製菓　矢崎総業　ヤマトホールディングス　山梨中央銀行　ヤマハ発動機　ユアサ商事　UBE　ユニチカ
ユニ・チャーム　横河電機　横浜銀行　ラック　リケン　リコー　リンクアンドモチベーション　ローソン　ワタキューホールディングス　ほか

スコアリングを受けるメリット

回答企業には自社の活動を可視化する詳細な分析レポートを返送

1. 自社の**ポジションや課題を分析**
2. 自社の**活動のアップデートや方針策定の指針**として利用
3. 上位企業や事例集から**自社がベンチマークとすべき企業**を発見


様　結果サマリ

/1000点

ランク

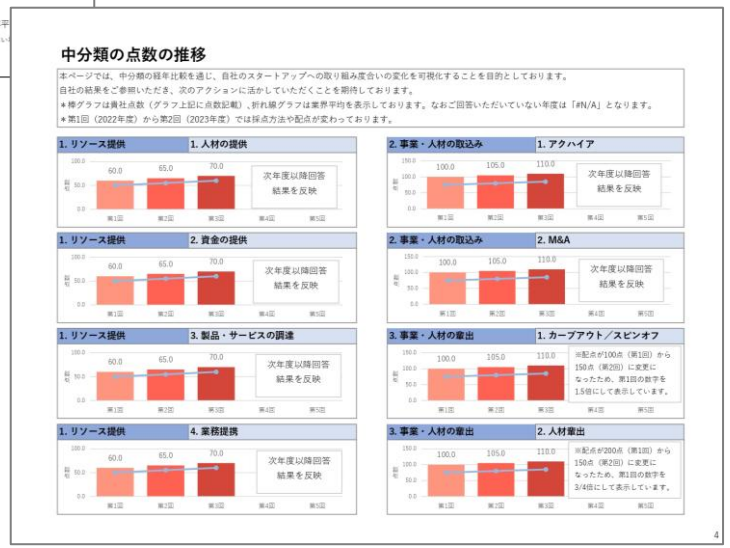
全体平均点：　/1000点
全体中央点：　/1000点

A	B	C	D	E
1000～800	799～600	599～400	399～200	199～0

1. リソース提供　/400点　ランク
2. 事業・人材の取込み　/300点　ランク
3. 事業・人材の輩出　/300点　ランク

自社の回答と点数以外にも
設問ごとの採点基準、平均点、業界平均点を明示

継続回答企業の場合は
中分類の点数の推移も掲載


中分類の点数の推移



自社の取り組みが進んでいくなかで
スコアリングで回答する中身もどんどん良くなり、
社内もエンハンスメントされていく。
その延長線上で一番正しい姿が見えてくると思う。
日本を変えるには経団連が変わることが一番良い。

髙橋誠スタートアップ委員長（KDDI会長）
経団連Startup Summit 2024（2024/5/27開催）にて

KIXの定期開催

大企業とスタートアップの連携を促進するため、大企業側の参加者を**意思決定権者（部長級以上）**とするピッチイベント**「Keidanren Innovation Crossing（KIX）」**を2019年10月から定期開催。2026年5月までに累計**56回**開催・延べ約**400社**が登壇。

Keidanren Innovation Crossing

対象分野の例	AI／データ分析	農業・食品
	ロボット／ドローン／センシング	宇宙
	ヘルステック・バイオ	HR Tech
	SaaS	クリエイティブ　etc
コラボレーション先の例（五十音順）	ILS（イノベーションリーダーズサミット）	東海国立大学機構
	大阪産業局・ナレッジキャピタル	東京工業大学（現：東京科学大学）
	沖縄科学技術大学院大学	東京証券取引所／日本取引所グループ
	キャナルベンチャーズ	東京大学・東大IPC
	九州経済連合会	東北大学・東北大学ベンチャーパートナーズ
	京都大学	Beyond Next Ventures
	Google	広島県
	慶應義塾大学	フォースタートアップス
	経済産業省（J-Startup）	福岡県
	CiP協議会	Plug and Play
	シリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム	北陸経済連合会
	ゼロワンブースター	北海道大学
	筑波大学	リアルテックホールディングス　etc

KIXの模様

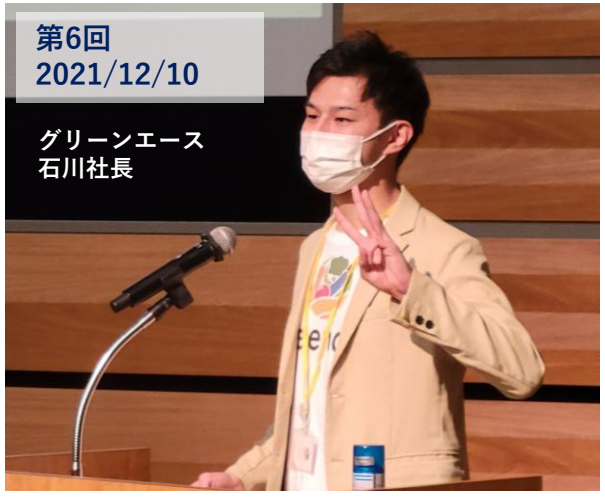


進行：齊藤昇 企画部会長
（BIPROGY社長）





















KIXの成果

■ **ピクシーダストテクノロジーズ・塩野義製薬**は、認知症予防・認知機能改善の可能性を持つ「ガンマ波サウンド」を共同開発。

PxDT/塩野義グループこれまでのあゆみ

出会いから4年半、共同研究開始から約2年で第1弾、約5年で第4弾製品化に成功。



10月：経団連KIXの場で出会う



9月：SHQ、SHC、PxDT
三社間業務提携契約発表



『Ageing Asia 2025 World Ageing Festival』
4月：TECHNOLOGY部門
グランプリ受賞



11月：「関東地方発明表彰」
発明奨励賞を受賞

2019　2020　2021　2022　2023　2024　2025　2026

2月：共同研究開始

6月：共同事業に向けた
基本合意書の締結



4月：共同開発製品発売

4月：6社間連携発表



3月：東北発・CATV×ガンマ波サウンド™
で認知症に挑む！



5月：第2弾発売

2月：第3弾発売
4月：第4弾発売

4月：第2弾製品のアジア圏
テストマーケティング開始

© Pixie Dust Technologies, Inc. Strictly Confidential

（出所）ピクシーダストテクノロジーズ・塩野義製薬

KIX-Regionalの立ち上げ

- 地方においてスタートアップの製品・サービスを認知する機会やマッチングの機会が不足しているとの声を踏まえ、**地方におけるスタートアップとのマッチング機会の創造**に向け、KIXで構築してきたスタートアップとのネットワークを活用し、各地の地方経済団体との連携により、KIXの全国展開版として**「KIX-Regional」を立ち上げ**。
- 2025年10月、初会合として九経連との共催で「KIX-Regional in Fukuoka」、12月に第２回として関経連との共催で「KIX-Regional in Kansai」を開催。

▼ 2025年10月7日開催
「KIX-Regional in Fukuoka」の模様



池辺九経連会長・南場委員長
登壇スタートアップ10社ほか

九経連会員企業を中心に約120名が参加



▼ 2025年12月10日開催
「KIX-Regional in Kansai」の模様



関経連会員企業を中心に約120名が参加

経団連Startup Slack

活発なスタートアップ関連活動の結果、KIX登壇スタートアップ、
CVCネットワーキング会合出席CVC、ほか
各種スタートアップイベント共催パートナー等と幅広いネットワークを構築

スタートアップ・経団連会員企業・大学・VCなどによる
オンラインコミュニティ
「経団連Startup Slack」を2023年12月オープン
すでに約630名が参加（2026年５月時点）

経団連 Startup Slackでできること

- 経団連からの案内を直接タイムリーに受信
- 自由な情報発信、イベント・企画等の宣伝
- イベントへの登壇応募、連携・相談相手募集
- 行政の支援情報、お役立ち情報の入手

※１社あたりの登録人数上限なし、登録・利用費用無料

経団連Startup Slackの利用イメージ

利用者層 ※参加登録フォームの情報より算出



その他　５％
- VC・CVC
- 支援機関
- 大学
- 自治体

利用画面イメージ



参考リンク

- スタートアップ委員会活動　特集ページ
  https://www.keidanren.or.jp/policy/StartUp.html
- 提言「スタートアップ躍進ビジョン」（2022年3月）
  https://www.keidanren.or.jp/policy/2022/024.html
- 提言「Science to Startup」（2024年9月）
  https://www.keidanren.or.jp/policy/2024/060.html
- 提言「育成から飛躍へ：スタートアップ育成５か年計画の先を見据えた基本戦略」（2026年4月）
  https://www.keidanren.or.jp/policy/2026/019.html
- 躍進ビジョンレビューブック2026（2026年5月）
  https://www.keidanren.or.jp/policy/StartUp/reviewbook2026.pdf
- スタートアップフレンドリースコアリング
  https://www.keidanren.or.jp/policy/StartUp.html#scoring
- 第4回スタートアップフレンドリースコアリングの結果概要（2026年5月）
  https://www.keidanren.or.jp/policy/StartUp/scoring-kigyo2025.pdf
- Keidanren Innovation Crossing (KIX)
  https://www.keidanren.or.jp/policy/StartUp/KIX.html



お問い合わせ先

経団連 産業技術本部（スタートアップ担当）

venture@keidanren.or.jp

経団連スタートアップページ